

かぶしきがいしゃ
ゲッキョク株式会社

にほんご べんきょう なに いちばんむずか き
「日本語を勉強して、何が一番難しかった？」とときどき聞かれる。

くろう にほんご つくだに たと いご
のみこむのに苦労した日本語は、佃煮にするほどあった。例えば、「以後」

いこう いらい いったい つか わ むずか よ
と「以降」と「以来」を一体どう使い分けたらよいのか。また、難しい四

じじゆくご いっしょうけんめいおぼ てきど てきとう てきせつ
字熟語を一生懸命覚えても、「適度」に、いや「適当」に、いな「適切」

つか いっしんいったい しこうさくご つきひ よう
に使えるようになるのに、さらに一進一退、試行錯誤の月日を要した。た

いちばんむずか あたま う ゲッキョク
だ、「一番難しかった」とくると、ぼくの頭にまっすぐ浮かぶのは「月極」
だ。

らいにち ころ じしょ つ いけぶくろ まち ある
来日したての頃、いつもリュックに辞書を詰めて、池袋の街を歩きなが
らん、看板を解説していた。「駐車場」という言葉には早くに出くわし、看板
の立っていた場所からすぐパーキングのこととわかった。ところが、頭に付
いていた「月極」——。

わえいじてん ひ で ちゅうしゃじょう
和英辞典で「げっきよく」と引いても出ない。ひょっとして駐車場のオ
ーナーの苗字か、あるいは「ムーン」の「エンド」といったネーミングか。
なんとなく「げっきよく」として頭に入れ、だんだん見慣れていった。

じてんしゃ の かんぱんかいどく はんい ひろ しんじゆく
そのうち自転車に乗るようになり、看板解説の範囲が広がった。新宿へ
行っても練馬を横断しても、上野、月島でも「月極」のパーキングを見か

ける。どうやら大企業で、東京の駐車場市場を独占している様子、一部上場か……と思い込んだまま突っ走っていた。

在日6年目にして、初めて青森へ出かけた。駅からとりあえず港のほうへ観光物産館を目指して歩いていたら、「月決め駐車場」という看板が目に入った。その頃はもう、リュックには和英を英和ではなく、国語辞典が忍ばせてあったが、「つきぎめ」を引くと「月極め」と出た！「月ごとの約束、あるいは計算で契約すること」の定義のあとに、『月決め』と書き換える慣用も」と一瞬にして、一大企業が消えた。

今でも、池袋の「月極駐車場」の看板がパッと目に入ると、耳の奥のどこかでゲッキョクの声がする。でも、月に一度行く青森を歩いていると、たとえ「月極」と書いてあっても、ぼくの内なる声は読み違えたりしない。

(アーサー・ビナード『日々の非常口』朝日新聞社)